

学位論文の要旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科生命医科学 乙 専攻環境社会医科学講座地域家庭医療学 分野	氏 名	後藤道子
-----	--	-----	------

主論文の題名

Describing the factors that influence the process of making a shared-agenda in Japanese family physician consultations: a qualitative study

主論文の要旨

[背景] 患者は、常に診断に必要な情報を、診察中に医師と共有しているとは限らない。たとえそうであったとして、質の高い診察とケアの提供を保証する為には、患者 agenda を明らかにし理解することが重要である。

[目的] 本調査の目的は、日本の家庭医の外来診察における患者と医師のナラティブから、Shared agenda decision making のプロセスにおける agenda の share に影響する要因を明らかにすることにある。

[方法] 修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いて、大学附属病院総合診療科の外来で8名の医師の16の診療を見学し、8名の医師15名の患者に対して、診察後それぞれ半構造化インタビューを行い、分析した。

[結果] 患者のナラティブから明らかになった agenda の share に影響する要因は、

- ①past medical experiences、②undisclosed but relevant information、
③relationship with the family physician、④patient's own explanatory model
の4つに分類できた。医師のナラティブから明らかになった agenda の share に
影響する要因は、①understanding the patient's explanatory model、
②constricting the patient-doctor relationship、③physical examination centered
around the patient's explanatory model、④discussion-styled explanation、
⑤self-reflection on action の5つであった。

[結論] 本研究は、医師が、患者の agenda のみならず自身の agenda についてもこれらの要因を率先的に考慮すれば、患者は満足感を得るであろうことを示唆した。